

跋

自分の作が出版されることに決定した時、自分にも一度推敲する事にした。作さして貰うが良いかさいふことは自分には分らない、併し冗句を省略したとき、舞臺に適するこゝ等に於て、自分は此の書の方を薦めたいと思ふ。元の第一幕一場、二場を連続して第一齣となした事は決して無理をしたのではない。寧ろ作者が筆

を下した當初の姿に違つたのである。ウィルキ
ンソンに關する箇所を省略したのは、作全體の
ために、特に舞臺のために、其の方が良いと思
つたからである。最後の編には自分は殆んど筆
を入れなかつた。寧ろ入れられなかつたのであ
る。

大正十四年三月

番匠谷英一

黎明—戯曲—

定價金壹圓

複製を許さず

大正十四年三月一日印刷
大正十四年三月五日發行

著者兼發行者 鈴木兼吉

(大阪府北區中之島三丁目番地)
株式會社 朝日新聞社

印刷者 北島格 (同)

印刷所 大阪朝日新聞社發行所 (同)

發行所

大阪府北區中之島
三丁目番地

株式會社

朝日新聞社

トエツク-73

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

終